

イチゴより採集したハダニ類の薬剤感受性

福島県農業試験場 病理昆虫部
平成12・13年度福島県農業試験場試験成績概要
分類コード 03-07-23000000

部門名 野菜-イチゴ-病害虫防除
担当者 中村淳・高倉慎

I 新技術の解説

1 要旨

県内のイチゴ栽培圃場から採集したハダニ類の主な殺ダニ剤に対する薬剤感受性を雌成虫および卵について調査した。

(1) ナミハダニ雌成虫

各個体群で感受性が高く効果が安定していたのはピフェナゼート(マイトコーネフロアブル)、ミルベメクチン(コロマイト水和剤)であった。酸化フェンブタスズ(オサダン水和剤)、クロルフェナピル(コテツフロアブル)およびケルセン(ケルセン乳剤)に対する感受性は個体群によって低下が見られ、アクリナトリン(アーデント水和剤)とテブフェンピラド(ピラニカEW)では顕著に低下していた。

(2) ナミハダニ卵

エトキサゾール(バロックフロアブル)に対する感受性は一部の個体群で低下が認められ、テブフェンピラド(ピラニカEW)とヘキシチアゾクス(ニッソラン水和剤)では顕著に低下していた。

(3) カンザワハダニ雌成虫および卵

供試した各薬剤に対して感受性の低下は認められなかった。

2 期待される効果

イチゴに発生するハダニ類に対して、今回明らかになった有効薬剤を使用することによって効率的かつ効果的な防除が可能になる。

3 適用範囲

県内全域

4 普及上の留意点

- (1) ナミハダニに対しては有効な薬剤に限られるため、天敵を用いた生物的防除など薬剤防除以外の防除手段を積極的に導入する。
- (2) 各薬剤の使用基準を遵守し同一薬剤を連用しない。

II 具体的データ等

表1 イチゴほ場より採集したハダニ類(雌成虫)に対する殺ダニ剤の防

供試薬剤(希釈倍率)	採集時期 (年・月)	補正死虫率(%)								
		保原1	保原2	福島	鏡石	棚倉1	棚倉2	相馬1	相馬2	いわき
アクリナトリン水和剤(1000)	(00.5)	0	41.9	63.3	-	33.9	100	28.5	26.0	-
クロルフェナピル水和剤(2000)	(00.5)	4.6	59.2	100	-	100	100	21.8	15.1	-
	(00.11)	83.8	20.6	-	-	100	-	-	-	-
	(01.5)	76.0	-	-	100	100	-	23.7	43.9	58.6
ケルセン乳剤(1500)	(01.5)	87.8	-	-	59.4	25.0	-	11.4	52.1	97.1
	(00.5)	96.6	93.5	56.6	-	100	100	91.8	100	-
	(00.11)	93.8	90.3	-	-	100	-	-	-	-
テブフェンピラド乳剤(2000)	(01.5)	100	-	-	94.1	59.2	-	91.6	93.4	96.2
	(00.5)	16.6	38.6	38.7	-	42.8	100	19.6	44.0	-
	(01.5)	0	-	-	42.4	71.7	-	23.8	27.9	20.5
ピフェナゼート水和剤(1000)	(00.11)	100	100	-	-	100	-	-	-	-
ピリダベン水和剤(2000)	(00.11)	6.5	-	-	-	-	-	-	-	-
ミルベメクチン水和剤(2000)	(00.5)	100	100	100	-	100	100	100	100	-
	(00.11)	100	100	-	-	100	-	-	-	-
	(01.5)	100	-	-	100	100	-	100	100	100

注) 棚倉2のみカンザワハダニ、他はナミハダニ

表2 イチゴほ場より採集したハダニ類(卵)に対する殺ダニ剤の防除効果

供試薬剤(希釈倍数)	採集時期 (年 月)	補正死卵率(%)								
		保原1	保原2	福島	鏡石	棚倉1	棚倉2	相馬1	相馬2	いわき
エトキサゾール水和剤(2000)	(00. 5)	88.5	78.4	31.7	-	97.1	100	81.3	92.7	-
	(00.11)	-	92.0	-	-	100	-	-	-	-
	(01. 5)	80.6	-	-	7.3	88.5	-	90.0	100	100
テブフェンピラド乳剤(2000)	(01. 5)	9.3	-	-	3.1	9.8	-	26.1	20.8	10.2
	(00. 5)	11.2	5.2	1.6	-	3.1	100	6.9	7.0	-
	(01. 5)	14.8	-	-	1.9	28.2	-	28.1	0	20.5

注) 棚倉2のみカンザワハダニ、他はナミハダニ

表3 イチゴのハダニ類に対する殺ダニ剤の防除効果

薬剤名(希釈倍数)	ナミハダニ		カンザワハダニ	
	成虫	卵	成虫	卵
アクリナトリン水和剤(1000)	△	-	◎	-
エトキサゾール水和剤(2000)	-	○	-	◎
クロルフェナビル水	○	-	◎	-
ケルゼン乳剤(1500)	○	-	-	-
酸化フェンブタスズ水和剤(1000)	○	-	◎	-
テブフェンピラド乳剤(2000)	△	△	◎	-
ビフェナゼート水和剤(1000)	◎	-	-	-
ヘキシチアゾクス水	-	△	-	◎
ミルベメクチン水和剤(2000)	◎	-	◎	-

注) ◎: 効果あり、○: 効果が低い場合あり、△: 効果低い

Ⅲ その他

1 執筆者

中村淳、高橋徹

2 その他の資料等

なし